



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

8月号—No.351
2024.7.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【幹色(みきいろ)】樹の幹のような黄味がかかった茶色。

幹は外側の樹皮、内側の木部、中心の髄に分けられるが、幹色はどちらかというとも木部のような明るい色を指す。それに対して樹皮のような暗い褐色は樹皮色という。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和7年度 助成要綱決定 / ステージラボ八戸セッション報告

財団からのお知らせ..... 6

2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」登録アーティスト決定、登録アーティスト実地研修 実施団体募集 / 令和7年度「公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業」実施団体募集 / 令和7年度「公共ホール音楽活性化事業(障害者関連プログラム)」[公共ホール現代ダンス活性化障害者関連事業]実施団体募集 / 令和7年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集 / 令和6年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

今月の情報..... 9

地域通信

今月のレポート..... 12

新潟市 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
Noism Company Niigata 20周年記念公演「Amomentof」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

令和6(2024)年9月30日(月)まで申請受け付け

令和7(2025)年度助成要綱が決定

令和7年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上、公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

地域における社会問題の深刻化、顕在化等に伴い、地方公共団体等が文化芸術により地域の課題に向き合い、解決に向けて取り組もうとするアウトリーチ、ワークショップ等を行う事業に関する企画制作能力の向上等を図るため、令和7年度から創造プログラムに地域課題対処特別分を新設します。

このほか、創造プログラムについては、本プログラムの趣旨を踏まえ、他の地域の参考になるような顕著な工夫が認められる事業等に助成を行うとともに、一般分について同一地方公共団体の重複採択を認めることとします。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

地方フェスティバル事業の対象としてきた公演事業については、令和7年度から創造プログラム一般分・企画制作力向上特別分により助成します。また、地域伝統芸能を活用して地域

の課題に向き合い解決に向けて取り組もうとするアウトリーチ、ワークショップ等を行う事業については、新設する創造プログラム地域課題対処特別分により助成します。

助成要綱をご覧の上、ぜひ申請をご検討ください。

募集締切:令和6(2024)年9月30日(月)

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる公演、展覧会事業(※2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

※公演、展覧会とは別にアウトリーチ、ワークショップ等を行うものに限る。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の公演、展覧会事業※に対して助成する事業です。

※公演、展覧会とは別にアウトリーチ、ワークショッ

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/docs/13083.html>

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等の取りまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●地域の文化・芸術活動助成事業に関する問い合わせ
総務部 林
Tel. 03-5573-4164

●地域伝統芸能等保存事業に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

事業名	分野	事業実施者			
		地方公共団体			指定管
		都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※) 注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)			○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)			×	都道府県・政令指定
	創造プログラム(地域課題対処特別分)			○	○
	[2]連携プログラム 連絡調整事業	○	○	○	○
[3]研修プログラム					
[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]映像記録保存事業	×	○	○	×
	[2]保存・継承活動支援事業				

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

ブ等を行うものに限る。

◎地域課題対処特別分 新設

文化芸術により地域の課題に向き合い、解決に向けて取り組もうとするアウトリーチ、ワークショップ等を行う事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

[2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)に対して助成する事業です。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを旨とする実践的な人材育成事業(1年間)に対して助成する事業です。

地方公共団体の職員による文化芸術により地域の課題に向き合う取り組みを促進するこ

とを目的に行うアートの手法を用いたワークショップ等を実施するものに限り、地方公共団体の職員に対する研修であっても、令和7年度から助成します。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を記載した計画を策定する事業に対して助成する事業です。類似する他の公立文化施設が評価を行う場合(いわゆるピア・レビューを含む)も、令和7年度から助成します。

●地域伝統芸能等保存事業

[1]映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業です。

[2]保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業です。

【参考】令和6(2024)年度
地域の文化・芸術活動助成事業
採択実績

	申請 件数	決定 事業数
創造プログラム (一般分)	77	71
創造プログラム (企画制作力向上特別分)	25	23
連携プログラム	58	27
研修プログラム	17	15
活性化計画プログラム	3	2
合計	180	138

【参考】令和6(2024)年度
地域伝統芸能等保存事業 採択実績

	申請 件数	決定 事業数
地方フェスティバル 事業	22	21
映像記録保存事業	8	7
保存・継承活動支援 事業	47	47
合計	77	75

理者	特定公益 法人(※) 注1	実行委員会等 注3	会場	助成措置			申請 期限
				助成率	助成の上限額 (1年ごとの金額)	対象期間	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	1,000万円	2年 もしくは3年 1年間	令和6(2024)年9月30日(月)必着
○	○	○			500万円	2年 もしくは3年	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で 3,000万円	1年間	
					100万円	事業前年 1年間	
					200万円	1年間	
					200万円	2年以内	
×	×	×	/	2/3以内	200万円	1年間	
				1/2以内	30万円		

左表脚注

※特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。

一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1: 設置者である地方公共団体の長の副申書を添付。

注2: 設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成。

注3: 地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額が助成対象。

●ステージラボ八戸セッション

八戸の地域資源やまちづくりを体感したラボ

ステージラボ 八戸セッション 報告

2024年7月2日～5日



ステージラボ八戸セッションが7月2日から5日まで八戸ポータルミュージアムはっちと八戸市美術館を会場に開催されました。今回はホール入門と自主事業の2コースで、地域創造の調査研究やおんかつで地域との関わりが深い大澤寅雄さん(合同会社文化コモンズ研究所代表・主任研究員)と、ダン活の登録アーティストとして市民参加の舞踏を創作してきた田村一行さん(大駱駝艦舞踏手・振付家)がそれぞれコーディネーターを務めました。

八戸市では、空洞化した中心市街地の活性化基本計画を策定し、はっち(2011年開館)、まちなか広場「マチニワ」(2018年開館)、美術館(2021年開館)などを整備してきました。今回は古くから市民に愛されている横丁も残る中心市街地の街歩きも行われ、八戸の地域資源やまちづくりを体感したラボとなりました。

●居場所／地域との関わりがテーマ～ホール入門コース

20年ほど前から「文化生態観察」と名付けて社会における文化を介した人の関わりを観察してきたという大澤さんは、舞台芸術の専門施設としてだけではない公立ホールの役割に注目しました。

東日本大震災で避難所となっただけのいわき芸術文化交流館アリオスの長野隆人さん(副館長・支配人)、秋田県立美術館をリノベーションしたアートセンターを市民一人ひとりの想像力を育み、応援する居場所として運営している秋田市文化創造館の三富章恵さん(NPO法人アーツセンターあきた事務局長)、全国の中学校数とほぼ同じ9,132カ所まで広がったこども食堂を支援する認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠さんらが、これまでにない切り口で受講生と向き合いました。

湯浅さんは、「こども食堂という名前だが、誰でも参加できる“共生食堂”で、地域コミュニティとオーバーラップして地域の人がつながる場所になっている。劇場ホールを地域の居場所にしたと思った時に留意すべきは、交流をベースにすると個別支援につながりにくく、支援をベースにすると広がりやを欠くということ。私は“より多くの人にたくさんの居場所”“どんな人にも少なくともひとつの居場所”を目指すべき方向性だと考えている」と話していました。

秋田市文化創造館の取り組み(道具と素材だけが置いてある「ソウゾウカンラボ」、チャレンジしていることを誰かに披露する「チャレンジマーケット」、何かを語り合いたい人に1時間無料で

写真

左上: ホール入門コース「地域の居場所と文化芸術」(講師:湯浅誠)

左下: 自主事業コース「舞踏風土記～番外編」の実演

右上: 自主事業コース「日常をおもしろがる～足元から遠くを見る」(八戸市内街歩きの様子)

右下: 共通プログラム「聞き取れる?喋れる?危機言語「南部弁」を体験してみよう!

●コースコーディネーター

○ホール入門コース

大澤寅雄(合同会社文化コモンズ研究所 代表・主任研究員)

○自主事業コース

田村一行(大駱駝艦舞踏手・振付家)

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 天野・児島

Tel. 03-5573-4068

場を提供する「カタルバー」などのレクチャーでは、創造館の職員になりきって日々のトラブルに対応するロールプレイも行われました。

受講生は事前課題として利用がない日のロビーなど自館の共有空間を写真撮影してラボに臨みましたが、最終日にはその写真をみんなで見ながら、公共施設とは何か、その可能性について改めて考えました。

● 舞踏の精神にふれる～自主事業コース

田村さんは、ダン活で八戸市と出会ったのをきっかけに民俗芸能「えんぶり」を教わり、2014年に新作舞踏『おじょう藤九郎さま』を発表するなど、各地の地域資源と交感して地元の人々と舞踏を創作してきました。中でも豊岡市民プラザは2017年のダン活から毎年、田村さんを招いて地元の伝承を題材に市民が舞踏手となる作品の創作を続けてきました。参加者にリピーターが多いことから22年には市民舞踏団を結成しました。

今回のラボでは、こうした各地の取り組みを、岩崎孔二さん(豊岡市民プラザ館長)、奥山裕さん(八戸市南郷文化ホール館長)、大澤苑美さん(八戸市美術館学芸員)、穂の国とよはし芸術劇場プラットの市民参加舞踏で題材となった『豊橋妖怪百物語』の著者である内浦有美さんなど、現場を支えたキーパーソンがレクチャー。また、生まれ育った奥信濃のおじいちゃん、おばあちゃんたちを写真で発信している小林直博さん(カメラマン兼編集者)と横丁に繰り出し、日常を楽しむをテーマに写真の撮影も行われました。

田村さんは、「地域資源と出会うきっかけはさまざまだが、僕はあくまでよそのもの。地域の宝物を題材にするのだから、ホール職員のように間に入ってくれる人がとても大切だ。僕が何をしたいというのではなく、訪ね歩いてピピッときたものをいただくものだと思っている」と前置き。その後、脱力して身体を空っぽにする宙体、その身体をイメージでいろいろなものに変えていくワークなどにトライしました。

そして、今回のメインが、受講生が白塗りを

して舞踏手となり、田村さんと共演する「舞踏風土記～番外編」の創作です。約5時間かけてヒトからケモノに変わり、即身仏から蘇るなど9シーンからなる30分の舞踏を完成させました。受講生たちは初めての白塗りで変身し、日常の自分から解放され、やりきった満足感で輝いていました。

※

共通プログラムでは、長年にわたって地域演劇活動に携わっている八戸市公民館館長の柗谷伸夫さんによる南部弁講座が行われました。日本ではアイヌ語など8言語がユネスコによる消滅の危機にある言語に指定されています。南部弁は指定されてはいませんが、話者が激減しており、柗谷さんは小中高校での講義や方言による演劇塾などにより普及活動を行っています。今回は活動の紹介に加え、やさしい南部弁にも挑戦。まゆげが「このげ」、へそが「へっちょ」、お月様が「ののさま」など、南部弁を通じて自分たちの地域の方言の豊かさを再発見する時間となりました。

次回のステージラボは、来年2月にフェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)で行われる予定です。奮ってご参加いただければと思います。

ステージラボ八戸セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
	開講式/オリエンテーション	
7月2日	「イントロダクション」 大澤寅雄	「大駱駝艦・田村一行舞踏ワークショップ」 田村一行
	全体交流会	
7月3日	「逆境の中で地域に開く」 長野隆人	「豊岡市民プラザから見えるもの」 岩崎孔二
	「関わりを作曲する」 鶴見幸代	「地域を見つめ、地域の魅力を発信する活動」 内浦有美
		「地域資源で何ができるのか」 大澤苑美、奥山裕、田村一行
	共通プログラム「聞き取れる? 喋れる? 危機言語『南部弁』を体験してみよう!」 柗谷伸夫	
7月4日	「アートセンターと“居場所”」 三富章恵	「日常をおもしろがる～足元から遠くを見る」 小林直博
	「地域の居場所と文化芸術」 湯浅誠	「『舞踏風土記～番外編』の創作」 田村一行、岩崎孔二、内浦有美
	「外に出る、外とつながる」 今川和佳子、柳沢拓哉	「『舞踏風土記～番外編』の実演」 田村一行
7月5日	「3日間のまとめ」 大澤寅雄	「ホールがアーティストと何ができるのか」 田村一行
	修了式	

財団からのお知らせ

●2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」

登録アーティストが決定しました

令和7・8(2025・2026)年度の公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)にて全国に派遣される、5組のアーティストが決定いたしました。現在、令和7年度の実施団体を募集中ですので、地域にクラシック音楽を届けたい公共ホールの皆さまは、ぜひご応募ください。

募集締切:2024年9月5日(木)必着

●鈴木 舞(すずき まい)[ヴァイオリン]

神奈川県出身。東京藝術大学卒。欧州で研鑽を積む。数々の国際コンクールで優勝、入賞を重ね、ソリストとして欧州、アジア、南米等でツアーを行うなど、世界各地でリサイタルやオーケストラとの共演を重ねている。国内では皇居桃華楽堂での御前演奏会に出演、チャンネル・ピグマリオン・デイズ・アーティストに選出された他、サントリーホール、王子ホール等の主要なホールで公演を行う。キングレコードよりデビュー CD をリリース。愛器は1683年製のニコロ・アマティ。



©Yukiko Shibuya

●山崎 由貴(やまざき ゆき)[ユーフォニアム]

静岡県浜松市出身。名古屋音楽大学を首席で卒業後、東京藝術大学別科修了。第38回日本管打楽器コンクールユーフォニアム部門第1位および特別大賞、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、東京都知事賞。チェジュ国際金管打楽器コンクールユーフォニアム部門2018、2020、2022第3位。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」出演。現在はソリストとして活動し、オーケストラの客演や後進の指導も行っている。ユーフォニアムを露木薫氏に師事。



●公共ホール音楽活性化事業

2025・2026年度登録アーティスト 実地研修 実施団体募集

新たにオーディションで選ばれたおんかつ登録アーティストの実地研修として、公共ホール担当者との協働により実際に各地域でアウトリーチプログラムの実践を行うために、過去のおんかつ、または邦楽事業実施団体からご協力いただける団体(2~3団体)を募集します。

募集締切:2024年9月19日(木)必着

◎対象団体

令和5年度までに、おんかつまたは邦楽事業を実施し、かつ原則として10年以内におんかつまたは邦楽事業を実施した団体

●三原 未紗子(みはら みさこ)[ピアノ]

第26回ブラームス国際コンクール優勝。第12回ルーマニア国際コンクール第1位、第5回アルコバッサ国際室内楽コンクール第2位(最高位)。ソロ・室内楽において多数出演するほか、国内外のオーケストラと共演し活躍の幅を広げている。桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学を最高位で卒業。文化庁新進芸術家在外研修員としてザルツブルグ・モーツァルテウム大学院を卒業。桐朋学園大学非常勤講師、同附属子供のための音楽教室非常勤講師。令和元年度藤沢市生涯学習特別貢献賞受賞。



©Karin Sasaki

●北垣 彩(きたがき あや)[チェロ]

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家海外研修員として渡独し、ライプツィヒ音楽演劇大学修士課程を最高位で修了。第69回全日本学生音楽コンクール第3位、第24回姫路バルナソスコンクール第1位および池辺晋一郎特別賞など入賞多数。サントリーホール室内楽アカデミー第4期フェロー。元新日本フィルハーモニー交響楽団契約団員。故村山実、林裕、故安藤信行、山崎伸子、中木健二、P.ヘル、C.ギガー各氏に師事。



●小野寺 光(おのでら ひかる)[バスバリトン]

昭和音楽大学卒業、同大学院修了。その後、イタリアのジェノバ音楽院にて研鑽を積む。第45回イタリア声楽コンクールソ・ミラノ大賞受賞。2017年イタリア・ストレーザ国際声楽コンクール第1位。2017年マルティナ・フランカの音楽祭にて『ジャンニ・スキッキ』表題役で出演。藤原歌劇団には2019年に『ランスへの旅』シドニー卿でデビュー後、数々の主要な役を務める。藤原歌劇団団員。昭和音楽大学非常勤講師。



◎対象アーティスト

2025・2026年度公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)登録アーティスト

◎期間

令和6年12月~7年3月のうち、連続した2~3日間

◎場所

公共ホールおよび域内小学校

◎内容

1日目:ホールにてアウトリーチのランスルーとプログラムの作り込み

2日目・3日目(※):小学校でのアウトリーチの実践と振り返り等

※3日間のスケジュールで行うのはアーティストが3組の場合のみ

◎経費負担

派遣にかかる旅費、謝金、ピアノ調律費等を地域創造が負担

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 日野・森永
Tel.03-5573-4076

●令和7年度「公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業」実施団体募集

地域にゆかりのあるクラシック音楽または邦楽の演奏家の育成やそのようなアーティストによる事業の実施を検討されている公共ホールのお役に立てるよう、オーディション、アウトリーチの手法を活用した双方向のミニコンサート・ワークショップ等に関する研修会等を内容とする地域人材の育成のための事業を令和7年度より実施することとしました。

地域にゆかりのあるアーティストの育成や事業の実施を模索しているホール担当者の皆様、ぜひ本事業をご活用ください。

募集締切: 2024年9月19日(木) 必着

◎対象団体

おんかつまたは邦楽事業を過去に実施した市町村等(特別区を含み、政令指定都市を除く)。ただし、おんかつ、邦楽事業または地域創造の他の共催事業を原則として10年以内に実施していること。

◎事業内容

- ①研修プログラムの策定
- ②研修会等(実施団体の職員等を対象とする地域交流プログラムに関する研修会、実施団体の職員等を対象とする文化・芸術による地域づくりに関する研修会(アーティストのオーディションに関する研修会を含む)、アーティストを対象とするアウトリーチで行うプログラム開発に関する研修会の全部または一部)の実施
- ③報告会の実施

◎経費負担・支援内容

上記事業に係る経費の1/2を地域創造が負担(対象経費上限100万円)／アドバイザーの派遣／研修会における講師の派遣

※詳細は実施要綱等をご確認ください。
※実施要項・申込書はホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/07.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 仕田
Tel.03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

●令和7年度「公共ホール音楽活性化事業(障害者関連プログラム)」 「公共ホール現代ダンス活性化障害者関連事業」実施団体募集

社会包摂に関する事業を検討されている公共ホールのお役に立てるよう、障害者を対象にアウトリーチの手法による地域交流プログラムを実施する事業を令和7年度より実施することとしました。社会包摂に関する事業の実施について模索しているホール担当者や、障害者を対象とする事業のステップアップに取り組みたいホール担当者の皆様、ぜひ本事業をご活用ください。

募集締切: 2024年9月19日(木) 必着

◎対象団体

令和5年度までに、おんかつ、邦楽事業またはダン活(平成29年度以降はダン活Aプログラム)を実施した市町村等(特別区を含み、政令指定都市を除く)。

◎事業内容

4日間以内の日程を1回または2回に分け、障害者施設等においてアウトリーチによる地域交流プログラムを4～8回実施。コーディネーターおよびアーティストとともに現地下見(個別研修)を実施(2回まで可能)。

◎支援内容

- 障害者福祉の現状や障害者を対象とする事業の実施に必要な知識を得るための全体研修会を実施
- 障害者を対象とする事業の経験が豊富なコーディネーターを派遣
- おんかつ支援またはダン活支援登録アーティストの中から、障害者を対象とする事業の経験が豊富なアーティストを派遣
- 実施団体および地域の状況に応じて長期的なビジョンを持って事業を実施できるよう最大3回(3カ年)まで実施可能

※詳細は実施要綱等をご確認ください。
※実施要項・申込書はホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/>

◎問い合わせ

芸術環境部 栗林・仕田
Tel.03-5573-4055・4078
project@jafra.or.jp

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●令和7年度ダン活支援の実施要綱・申込書等は、当財団ホームページに掲載しています。

<https://www.jafra.or.jp/project/dance/02.html>

◎申し込み・問い合わせ

芸術環境部 溝上

Tel. 03-5573-4075

dankatsu@jafra.or.jp

●令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体(主会場/アーティスト/日程)

◎Aプログラム

●京都府(京都府立けいはんなホール/中村蓉/6月26日~29日)

●三重県津市(津市久居アルスプラザ/長与江里奈/9月18日~21日)

●高知県四万十市(四万十市総合文化センター/藤田善宏/10月23日~26日)

◎Bプログラム

●沖縄県浦添市(アイム・ユニバース てだこホール/マニシア/6月6日~10日、27日~30日)

●静岡県菊川市(菊川文化会館アエル/井田亜彩実/7月12日~14日、9月18日~23日)

●茨城県日立市(日立シビックセンター/大島匡史朗/7月13日~15日、8月5日~10日)

●長野県喬木村(曙月庵/康本雅子/8月17日~20日、10月16日~20日)

●鹿児島県与論町(与論町砂美地来館/長与江里奈/2025年1月17日~19日、2月19日~24日)

◎Cプログラム

●千葉県市川市(市川市文化会館/浅井信好/12月12日~15日)

●熊本県天草市(天草市民センター/康本雅子/2025年2月20日~23日)

●山形県大石田町(大石田町町民交流センター 虹のプラザ/浅井信好/3月20日~23日)

◎問い合わせ

芸術環境部 菅藤・永田

Tel. 03-5573-4067・4077

dankatsu@jafra.or.jp

●令和7年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラ

◎対象団体

次に掲げる①または②に該当する団体であって、本事業を実施していない団体、かつ原則として令和2年度以降にダン活を実施した団体

①ダン活のAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作・公演プログラム)およびCプログラム(公演プログラム)のすべてを実施した地方公共団体等

②ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

ムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

募集締切:2024年9月20日(金)必着

◎対象アーティスト

公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(25組)

◎支援内容

以下の①②に係る経費の1/2以内で財政支援を行います。

①対象アーティスト等派遣経費:対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等(助成対象上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料

②公演負担金:公演実施に係る経費(助成対象上限あり)

※詳細については要綱をご確認ください。

●令和6年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度の実施団体は11団体(左欄参照)。6月から各地で事業がスタートしています。

京都府(京都府立けいはんなホール)では昨年のBプログラムに引き続き、地域とダンスの関わりが継続することを目指しAプログラムを実施しました。アウトリーチは小学校のほか、大阪関西万博と同時にこの地域で開催される「けいはんな万博」に向け、市民活動がより活性化されるよう地域団体や研究所を対象に実施。文化学術研究都市という立地ならではの参加者に向けて、表現の自由さや楽しさだけでなく、身体動作としての側面から自己調整や空間把握などについてアーティストとの意見交換も行われ、科学と文化の融合による地域の新たな結びつきが生まれる機会となりました。公募ワークショップでは前日までのアウトリーチ参加者の申し込みが急遽増えるなど、ダンスや表現活動への興味関心の広がりが伺えました。

浦添市(アイム・ユニバース てだこホール)では、コロナ禍による2度の延期を経てBプログラムを実施し、2歳から映像出演の100歳まで約60人の出演者と、米軍基地の近くで栄えてきた屋富祖という地域の過去・現在・未来を描いた作品を上演しました。創作はチームごとにワークショップ形式で取り組み、出演者の発想から生まれた動きや地域で踊られている踊り、歌をアレンジしてシーンに取り入れました。また、参加団体のひとつである

珠算学校には、浦添市長をはじめ多くの方が通ってきた歴史があり、フラッシュ暗算も組み込まれたシーンは公演後のアフタートークでも話題になりました。公募ワークショップでは、幼児から大人まで障がいの有無に関わらず、動くこと・表現することを楽しみ、「ばりあふり〜ダンスわくわく体験会」の名称どおりの場となりました。

これから実施予定の団体も、工夫を凝らしたプログラムを企画しています。ぜひ、お近くで行われるダン活の取り組みにご注目ください。



上: 公演の様子(Bプログラム/アイム・ユニバース てだこホール/アーティスト:マニシア) 下: 企業アウトリーチの様子(Aプログラム/京都府立けいはんなホール/アーティスト:中村蓉)

▼ 今月の情報

アートセンター、アートクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● 地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

● データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック
[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

● 2024年10月号情報締切
8月19日(月)

● 2024年10月号掲載対象情報
2024年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

● 札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目
Tel. 011-642-5709 梅村尚幸
<http://hongoshin-smos.jp/>

共振一本郷新+北海道の現代アーティスト

彫刻家・本郷新(1905～80)が生まれ育った北海道において、立体造形・写真・短歌などさまざまな分野で活動している現代作家に依頼し、各自がセレクトした本郷の作品や精神に関連した新作を展開する企画展。没後44年経った本郷に対する現代作家たちからの応答と双方の作品の響き合いを楽しめる。8月4日には、作品鑑賞を楽しみ語り合う中高生向け新ワークショップ「札幌おしゃべり美術部」を開催。
[日程] 6月15日～9月16日
[会場] 本郷新記念札幌彫刻美術館



地面：山田航《Roppongi Crossing》(短歌、2024年)/中央：本郷新《奏でる乙女》(石膏、1954年)

● 青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9
Tel. 0176-20-1127 中川千恵子
<https://towadaartcenter.com/>

尾角典子 #拡散

パンデミックを経てより身近な存在となったウイルスの生態や増殖の過程を、最新テクノロジーを駆使した生成AIに見立てることで、新たな視点から人間とテクノロジーの関係に迫る企画展。さまざまな異なるジャンルに

興味があるすべての人に対して、新たな視点や発見をもたらすことのできる展示をお届けする。
[日程] 7月6日～9月8日
[会場] space (十和田市現代美術館サテライト会場)

● 宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<https://sugimurajun.shiomo.jp/>

若手アーティスト支援プログラム Voyage2024 土井波音展「汽水の幽霊」 渋谷七奈展「光源の二輪」

活躍が期待される若手アーティストの可能性に光を当て、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としたトークやワークショップなど多様な表現の機会を設けるプログラム。10回目となる今回は、公募により選考されたアーティストの土井波音、画家の渋谷七奈による展覧会と関連企画を開催。地元ゆかりのある2人の意欲的な表現活動を体感できる。

[日程] 7月13日～9月1日
[会場] 塩竈市杉村惇美術館

関東

● 千葉県市川市

市川市文化振興財団
〒272-0025 市川市大和田1-1-5
Tel. 047-379-5111 田所久仁子
<https://www.tekona.net/>

やなせたかし 七色の世界

市川市芳澤ガーデンギャラリー開館20周年を記念し、「アンパンマン」シリーズほか多方面で活躍したやなせたかし(1919～2013)の展覧会を開催。「七色の作家」と言われ、漫画家や詩人、絵本作家、編集者、デザイナーなど多才な顔を持つやなせの仕事、原画作品を中心に7つのコーナーに分け紹介する。

視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップも開催。
[日程] 7月12日～9月1日
[会場] 市川市芳澤ガーデンギャラリー

● 東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543 齋藤直子
<https://www.setagaya-ldc.net/>

アウト・オブ・民藝 「民」から芋づる編 MINGEIのB面!

『アウト・オブ・民藝』の著者であるデザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が、「民藝(民衆的工芸)」という言葉を生み出した柳宗悦らの民藝運動と今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを「民」という文字から紐解く企画展。主に1910～40年代の新聞や雑誌などの膨大な資料を時系列に沿って組み上げた年表は圧巻。
[日程] 4月29日～8月25日
[会場] 世田谷文化生活情報センター 生活工房

● 東京都豊島区

東京芸術劇場
〒171-0021 豊島区西池袋1-8-1
Tel. 03-5391-2115 辻・佐々木
<https://www.geigeki.jp/>

芸劇dance 中村蓉ダブルビル 邦子狂詩曲 クニコラブソディー

作家・向田邦子の世界を2つのダンスで表現するプログラム。中村蓉が得意とする舞台芸術の多要素を横断的に用いながら描く『花の名前』と、個性的なコンテンポラリーダンサーの鍛えられた身体で描く新作『禍福はあざなえる縄のごとし』の2つのアプローチで、向田が綴るスリリングな世界に迫る。
[日程] 8月9日～12日
[会場] 東京芸術劇場

北陸・中部

●富山県南砺市

(公財)利賀文化会議

〒939-2513 南砺市利賀村上
百瀬70-2

Tel. 0763-68-2356 重政良恵

<https://www.scot-suzukicompany.com/>

SCOTサマー・シーズン2024

世界中の演劇ファンが「演劇の聖地」利賀を訪れ、世界レベルの演劇プログラムを楽しむ夏の祭典。「世界は日本だけではない 日本は東京だけではない この利賀村で世界に出会う」をスローガンに、日本初の国際演劇祭として開催された「第1回利賀フェスティバル」から数え、42年目となる今回は、鈴木忠志演出の花火劇『世界の果てからこんにちはI』ほか8作を上演する。

[日程] 8月23日～9月8日(期間中の金・土・日)

[会場] 利賀芸術公園



『世界の果てからこんにちはI』舞台写真
提供: SCOT

●石川県金沢市

石川県立美術館

〒920-0963 金沢市出羽町2-1
Tel. 076-231-7580 前多武志

<https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

特別展 まるごと奈良博 一奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション

2021年の「奈良博三昧」展のエッセンスを踏襲しながら、北陸・石川が持つ仏教への信仰が篤い文化風土を背景に、国宝8件、重要文化財93件を含む200件超の奈良国立博物館の仏教美術コレクションを展示し、“まるごと”奈良博を紹介する企画

展。館外でこれらの数が一度に公開されるのは初めて。ワークショップや“推し仏”の投票、仏教美術トークショーも開催予定。
[日程] 7月6日～8月25日
[会場] 石川県立美術館

●長野県茅野市

信州アーツカウンシル

〒380-0928 長野市若里1-1-4
県立長野図書館内1F

Tel. 026-223-2111 伊藤

<https://shinbism.jp/>

Re-SHINBISM2 そして未来へ

2016年度より長野県内で実施されてきた、地域ゆかりの作家を紹介する独自の取り組みであるシンビズム。その中でも2018年の作家たちに焦点を当てる今回の企画展は、作品を通してこの6年間を振り返るだけでなく、それぞれがどのように進化したのかを含め、再び今と未来を見つめ、今後も共に歩んでいく存在として来場者にもその意義を考えてもらう機会とする。

[日程] 7月28日～9月1日

[会場] 茅野市美術館

近畿

●三重県伊勢市

伊勢市観光文化会館

〒516-0037 伊勢市岩渕
1-13-15

Tel. 0596-28-5105 井本豊

<https://www.ise-kanbun.jp/>

あなたと創る 伊勢アート・コラボレーション 創作舞台『竹取物語』

舞踊・オイリュトミー・音楽(尺八、箏、歌)・演劇など、多分野の地元アーティストたちが互いに影響を受けながら新しいアートを生み出す創作舞台。昨年、竹取物語から一人芝居『十五の夜に』を創作・上演した俳優の仲間太持を翁役に迎え、日本の物語の祖として親しまれている「竹取物語」をかぐや姫の誕生から

昇天までの4部構成で多角的に描く。

[日程] 8月31日

[会場] シンフォニアテクノロジーホール伊勢(伊勢市観光文化会館)

●京都市

京都府立府民ホール アルティ

〒602-0912 京都市上京区龍前町590-1

Tel. 075-441-1414 碓井智恵

<https://www.alti.org/>

ALTIリニューアルオープン記念公演

8カ月の休館を経て9月1日にリニューアルオープンする京都府立府民ホール“アルティ”。その記念公演として、1部では人間国宝の金剛永謹による能の舞囃子、2部では上村昇(チェロ)、小山実稚恵(ピアノ)によるクラシックコンサートを開催。また能舞台からクラシックコンサートへの舞台転換の様子も、解説付きでお届けする。

[日程] 8月31日

[会場] 京都府立府民ホール アルティ

●大阪市

大阪大学中之島芸術センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

secretary.art@ml.office.osaka-u.ac.jp 中村恭子

<https://www.art.osaka-u.ac.jp/>

天然表現 投錨するアート

作品を大海原の一点に落とされる「錨」に例える展覧会。芸術を志向し、芸術を照射する郡司ペギオ幸夫(生命論研究者)、松本直樹(美術家)、中村恭子(日本画家)を迎え、未来に向け、芸術を復興する種を蒔く。タイトルの「天然表現」とは、郡司が提唱する創造行為の核を表すものである。期間中には、3名が天然表現の意味を議論するトークイベ

ントも開催。

[日程] 7月2日～8月4日

[会場] 大阪大学中之島芸術センター

●大阪府高槻市

高槻城公園芸術文化劇場

〒569-0077 高槻市野見町6-8

Tel. 072-671-1062 平田奈津紀

<https://www.takatsuki-bsj.jp/tat/>

高槻城公園芸術文化劇場 オープンデー —ふらっとTAT—

大人も子どもも楽しめるさまざまな企画が高槻城公園芸術文化劇場南館のあちこちで行われる。演奏会をはじめ、東映京都撮影所による忍者・侍ショー、高さ3.5mの大きな窓ガラスに絵を描いたり、元タカラジェンヌによるメイクレッスンと歌・ダンスのワークショップなど、見て、聴いて、体験して、体全体で一日中劇場を楽しむことができる。

[日程] 8月17日

[会場] 高槻城公園芸術文化劇場

●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術博物館

〒659-0052 芦屋市伊勢町12-25

Tel. 0797-38-5432 川原百合恵

<https://ashiya-museum.jp/>

特別展「創立100周年記念 信濃橋洋画研究所 一大阪にひとつ美術の花が咲く—」

1924年、大阪に洋画家を志す者の指導を目的として開設された信濃橋洋画研究所の創立100周年を記念し、ここを起点に生み出された関西洋画壇を代表する20作家の60作品を一堂に展覧することで、その活動の実態に迫る。初代講師の一人である小出権重(1887～1931)の新発見作品や、公立美術館では初公開となる黒田重太郎(1887～1970)の作品も展示。

[日程] 6月22日～8月25日

[会場] 芦屋市立美術博物館

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●兵庫県宝塚市

宝塚市立文化芸術センター
〒665-0844 宝塚市武庫川町7-64
Tel. 0797-62-6800 山口由香
<https://takarazuka-arts-center.jp/>

市制70周年記念展「宝塚コレクション—宝塚市所蔵作品展—」

市制70周年を記念して宝塚市ゆかりの作家たちの作品を紹介する展覧会。会場である宝塚市立文化芸術センターも今年で5周年を迎えるなか、これまでで最大規模でのコレクション展を実施する。これまで展示の機会が少なかった作品を含め、市内の人には改めて、市外の人には新しく、次世代に繋いでいくべき作品たちの歴史と文化の魅力をお届けする。

[日程]7月20日～9月1日
[会場]宝塚市立文化芸術センター

●兵庫県丹波篠山市

兵庫陶芸美術館
〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4
Tel. 079-597-3961 萩原英子
<https://www.mcart.jp/>

受贈記念 高瀬正義コレクション 兵庫のやきもの探訪—五国の窯場を巡る—

高瀬正義氏のコレクション82件を受贈したことを記念する特別展。兵庫県のやきものに魅せられ、約65年の歳月をかけて高瀬氏が独自の審美眼で蒐集した作品を広く紹介する。本コレクションは、県内に点在する窯場に焦点を当て、各窯で生み出された個性豊かなやきものを網羅しようと試みたことが特徴で、変化に富んだやきものに親しむことができる。

[日程]6月8日～8月25日
[会場]兵庫陶芸美術館

中国・四国

●高知県高知市ほか

高知市文化振興事業団
〒781-9529 高知市九反田2-1
Tel. 088-883-5071 吉田剛治
<https://www.kfca.jp/kikaku/>

市民参加演劇公演

『12人の怒れる土佐人』

高知市出身の演出家・俳優の細川貴司を迎え、法廷サスペンスの金字塔『12人の怒れる男』を、市民参加演劇として創作する。翻訳家の永田景子と県内外から公募で集まった12名の翻訳チームが、新たに英文原作から土佐弁への翻訳に挑戦し、議論好きな土佐人にアレンジ。高知市公演を皮切りに県内4カ所で、現代の高知に生きる俳優による熱い会話劇を上演する。

[日程・会場]8月24日、25日：高知市文化プラザかるぼーと、9月1日：香南市のいちふれあいセンター、9月8日：土佐清水市立市民文化会館くろしおホール、9月14日：窪川四万十会館

九州・沖縄

●福岡市

福岡アジア美術館
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1
Tel. 092-263-1100 趙純恵
<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

福岡アジア美術館 開館25周年記念コレクション展「アジア・ポップ」

アジア近現代美術の「周縁」とされてきた大衆美術や民族美術作品を収集することで、既存の枠にとらわれない活動を続けてきた福岡アジア美術館が、開館25周年を迎えてお届けするコレクション展。映画や商業ポスターなどの大衆美術と、それらをイメージの源泉としたポップアートの傾向を示す現代美術を一堂で紹介することで、ここでしかできないユニークな展示を実現する。

[日程]4月20日～9月3日
[会場]福岡アジア美術館

●熊本県宇城市

宇城市不知火美術館
〒869-0552 宇城市不知火町高良2352
Tel. 0964-32-6222 三浦梓
<https://www.museum-library-uki.jp>

つん 今日も「あなぐまち」で生きていく

熊本県菊池市を拠点に活動する美術家「つん」の個展。第27回岡本太郎現代芸術賞グランプリ受賞後、国内外美術館初の個展となる。ダイナミックなインスタレーションと、個性的な「あなぐまち」(頭の中の具体的なまち)の住人たち一人ひとりへの繊細な眼差しが共存し、大人も子どもも強く惹きつける魅力的な世界が広がる。期間中には、つんによるワークショップをはじめ、年齢を問わずアートを体験できるイベントを開催。

[日程]7月13日～9月16日
[会場]不知火美術館・図書館

トピックス

EPAD Re LIVE THEATER

～時を越える舞台映像の世界～

一般社団法人EPADは2020年から舞台公演映像等の資料の収集・デジタルアーカイブ化やそれらの利活用のサポートとして、高画質収録と舞台公演映像の発掘を行ってきた。今年度は全国での巡回上映を目指し、地域の舞台芸術関係者向け上映会・シンポジウムを展開中。舞台芸術作品の保存と継承のあり方、映像上映がもたらす舞台芸術作品の可能性を考える。

[日程・会場]7月4日：神戸文化ホール、19日：長久手市文化の家、8月9日：いわき芸術文化交流館アリオス、9月5日：サザンクス筑後、11月27日：北海道立道民活動センター

[問い合わせ]EPAD事務局
info@epad.terrada.co.jp
<https://epad.jp/>

研修・シンポジウム

アートマネジメント人材育成事業2024～劇場で働こう～

3年目の開講となる今年度は、神戸文化ホールの開館50周年記念シリーズのテーマから着想し「劇場で働こう」をテーマに、劇場の背景となる文化行政の基礎知識や劇場運営のさまざまな工夫などに関する一般向け講座を全4回で実施。また、連携大学の学生に向けたインターンシップでは、個別事業でのインターンに加えて中期プログラムとしてオペラの稽古サポート枠を新設し、複眼的な角度から劇場の諸活動を掘り下げ紹介する。

[日程]9月26日、10月19日、31日、11月14日
[会場]中央区文化センター、神戸文化ホール
[問い合わせ]神戸市民文化振興財団
artmanage@kobe-bunka.jp
<https://www.kobe-bunka.jp/artmanagement2024/>

令和6年度文化施設職員等研修「地域共生社会と公立文化施設」

毎年開催している広島県内市町や文化施設の職員等を対象とした研修会。今年度は「地域共生社会と公立文化施設」をテーマに、多様な人々に文化芸術を届ける取り組みの事例紹介を中心とした講演会のほか、制作中の手話劇の一場面を公開して鑑賞サポートについて考えるグループワーク等を行い、誰もが舞台芸術に親しめる、地域に開かれた文化施設のあり方を考察する。

[日程]8月22日、31日、2月1日
[会場]県立広島大学サテライトキャンパスほか
[問い合わせ]ひろしま文化振興財団 Tel. 082-249-8385
<http://www.h-bunka.or.jp/zaidan/hiroubuntop.htm>

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

新潟市

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
Noism Company Niigata
20周年記念公演
「Amomentof」



上:「Amomentof」/下:「セレネ、あるいは黄昏の歌」 撮影:松橋晶子

● Noism Company Niigata 20周年記念公演

【主催】(公財)新潟市芸術文化振興財団
【会場・日程】りゅーとぴあ:2024年6月28日~30日(7月26日~28日に彩の国さいたま芸術劇場でも公演)

【演出振付】金森穰
【出演】「Amomentof」:Noism0・1・2/
「セレネ、あるいは黄昏の歌」:Noism0・1

● Noism Company Niigata

海外の有名カンパニーで実績を積んできた金森穰を芸術監督に招き、2004年にりゅーとぴあの専属舞踊団Noismとして創設(2019年にNoism Company Niigataと改名)。金森以下ダンサーたちは年間契約により、新潟に住み、りゅーとぴあ内のスタジオを拠点に活動。ベテラン3名(金森、井関佐和子、山田勇氣)による「0」、メインカンパニーの「1」(11名)、研修生の「2」(11名)が所属(2024年6月現在)。専属スタッフ5名(広報2人、制作3人)、館の舞踊企画課も課長を含め3名が関わる。

- 芸術総監督:金森穰
- 国際活動部門(芸術監督:井関佐和子)世界に通用する舞台や国内外公演の芸術面を担当
- 地域活動部門(芸術監督:山田勇氣)市民向けクラスや学校公演などの地域に根ざした活動を担当

日本初にして唯一の公立劇場のレジデンシャル・ダンスカンパニー Noism Company Niigata (以下、Noism)が20周年を迎えた。取材した6月29日に本拠地・りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館で行われた記念公演『Amomentof』は満員盛況だった。井関佐和子をメインにNoismのメンバー全員が出演し、稽古場での研鑽を積む様子を描いた『Amomentof』と、マックス・リヒターがリコンポーズしたヴィヴァルディの『四季』に振り付けた『セレネ、あるいは黄昏の歌』のダブルビルで、芸術総監督の金森穰が目指す「プロフェッショナルな身体による舞踊」が躍動していた。

2018年、そんなNoismにいわゆる“存続問題”が持ち上がった。「新潟から世界に発信する」ことを目指したNoismを支えてきた市の功績は大きかったが、政令市といえども人口が15年間で2万4千人も減少。こうした社会状況の変化と市長交代を受けて19年、市に劇場専属舞踊団検証会議が設置された。作品のクオリティや国内外での評価の高さは認められたものの、地域貢献度やNoismと市、りゅーとぴあを運営する新潟市芸術文化振興財団との意思疎通の不足等が指摘された。こうした意見を受けて三者による継続的な話し合いが行われ、22年8月までのNoismの存続が決定した。

その後、市はレジデンシャル制度に関する有識者会議を立ち上げ、制度の定義、目標、基本方針等を定め、芸術監督の任期は1期5年以内とし、任期の更新は1回、2期10年を上限とするりゅーとぴあの新たなレジデンシャル制度を発表、Noismが制度適用第1号となった。

新たなレジデンシャル制度を踏まえ、Noismは金森穰を芸術総監督として、国際活動部門(芸術監督:井関佐和子)、地域活動部門(芸術監督:山田勇氣)を設ける2部門3芸術監督体制に移行。地域の学校などを対象としたアウトリーチ活動も活発化させた。

この新体制について、りゅーとぴあ事業企画部舞踊企画課長の坂内佳子さんは次のように話す。坂内さんは、銀行員から、新潟県民会館

を経てりゅーとぴあの職員になり、2020年から舞踊を担当してきた。

「りゅーとぴあの職員になる前から観客としてNoismを見てきた。新潟にこんなカンパニーが出来たことが誇らしかった。館の事業費が開館当初からほぼ半減する中でNoismの運営費はキープされていた。市長選前からそのことについて議論はあり、館内でも不満がないわけではなかった。今回のことで正式に新潟市のレジデンシャル制度に位置付けられ、国際・地域の各部門を整えられたことは成果だと思う。ただ、金森総監督の任期は最長で2032年まで、さらに将来的に舞踊以外の分野になる可能性も含まれている。これまでの蓄積を生かし、今後どう進めるかだと思うが、レジデンシャル制度も始まったばかりでまだまだこれからだ」

では、金森は現状をどう受け止めているのだろうか。「まず20年間支えてくれた新潟には感謝しかない。Noismの活動は、この場所とこの環境でしかできなかった。これまでは市と財団の間を行ったり来たりしていたが、市のレジデンシャル制度に位置付けられたことで市・財団・カンパニーが協議する定例会も開かれるようになり、やっと市の文化政策としてのスタート地点につけた、という思いがある。芸術監督の任期が1期5年となっているが、3年目には次期監督の候補者を決めて選定に入り、最後の2年は引き継ぎに充てることになっている。25年が私の3年目なので、この制度の初代芸術監督として責任を持って次に引き継ぎたいと思っているが、選定の基準や方法などもまだ決まっていない。この20年、『この国に劇場専属舞踊団という制度を確立したい』という思いでやってきた。今は私がいなくても存続できるカンパニーの体制づくりに注力しており、2部門制の芸術監督に実権を移譲した成果も順調に出てきている」

海外の有名カンパニーでは芸術監督が交代することは珍しくないが、金森が創立して育てたNoismを生みの親から切り離して存続させることができるのか、市のレジデンシャル制度とはどのようなものなのか、試行錯誤が続くそうだ。

(舞踊評論家・乗越たかお)